# 再生のウズメ



写真① 左、鮫島奏（柴野晃太朗）右、小幡賢一（和田聰宏）

## 第8話　11 月 21 日(土)よる11時 40分

## 「あのイケメンは誰？」俳優・柴野晃太朗、人生初ドラマ奮闘中！

## 座長・イモトアヤコも柴野のコミュカに思わず嫉妬！？

## ウズメを傷つけた劇作家・コバタケ役は演技派イケオジ・和田聰宏！

## 年輪重ねた色気で「ウズメがコバタケを愛おしいと思える瞬間を」

イモトアヤコ主演の土ドラ『再生のウズメ』。（東海テレビ・フジテレビ系　毎週土曜日 23 時 40 分放送）
40 歳の元子役・田村ウズメが、12 年間のひきこもり生活を経て、白洲迅演じる便利屋「救ちゃん」の興梠と出会い、「何歳からでも人生はやり直せる」という希望と再生のメッセージを届けるヒューマンドラマ。

先週放送された第 7 話では、ウズメが長年すれ違っていた弟・田村尊（川原一馬）と 9 年ぶりに再会。互いに胸に秘めていた思いを不器用ながらも伝え合う姉弟の姿を通して、家族の絆と再生が描かれた。
SNS では、「この姉弟もまた再生していくんだね。ずっと互いを思い繋がってた」「お互いの心に触れた田村姉弟、実はちゃんとお互いを尊敬して応援してたんだね」「やっぱり言葉にして伝えるって大事なんだな」「尊が柔らかくて家族思いで、引きこもっていた姉に対する恨みなど一片もないような優しさで、ラストは泣けた」と姉弟の絆に心を動かされた声が寄せられたほか、「『諦めるな！』が響いて泣いた…」といった感想も見られた。

明日放送の第 8 話では、ウズメは 12 年前、自身が引きこもるきっかけとなった劇団の主宰者・小幡賢一（和田聰宏）、通称コバタケと再会。トラウマが揺り戻しかけるが、とある依頼をきっかけにウズメの逆襲が始まる！

そんな中、今回は 2 人のイケメンをピックアップ。「救ちゃん」のメイク担当・鮫島奏を演じる現役高校生俳優、柴野晃太朗と、最悪なトラウマ男を演じた和田聰宏にそれぞれ役への想いなどを聞いてみた。

まずは「ワタナベ次世代オーディション『LIVE！』2024」で約 1 万 5000 人の応募者の中から準グランプリに輝いた期待の若手俳優・柴野晃太朗。人生初のドラマ出演となった本作。第一話放送時には「あのイケメンは誰だ！？」と SNS で話題に。事務所の先輩・イモトアヤコの影響を受け成長し続ける柴野に初現場の思いを聞いてみた。



写真② 鮫島奏（柴野晃太朗）

## ●メイク初心者からの猛練習「一番自信があるのはコンシーラー（笑）」

人生初めてのドラマで何もかもが初体験だったのですが、（役柄上必要な）メイクもやったことがなく、スタッフさんがメイクの練習時間を作ってくださり、メイクの基礎を一から教わりました。参考動画を見ながら自分なりに手順やポイントをノートにまとめたり、ヘアメイクさんに教わったことを書き留めたりもしました。自分でもメイク道具を買いそろえて、普段からファンデーションを使ってみるなど、日常の中に取り入れて自分の顔で練習しました。そうやって準備したことで、撮影本番も落ち着いて臨めたと思います。ちなみに一番自信があるのはコンシーラーの使い方です（笑）。



写真③ 左から ニコ・スミス（前田美波里）
田村ウズメ（イモトアヤコ）鮫島奏（柴野晃太朗）

## ●第１話の名場面：目の当たりにしたイモトの熱演

### お芝居は音のない曲！？「イモトさんは（演技の）指揮者」

撮影で特に印象に残っているシーンは、第１話でウズメが母親・咲子さんに思いの丈をぶつけた後、「ごめんなさい」と謝るシーンです。放送では一度謝るだけの場面なんですけど、撮影ではカットごとに撮影するので、イモトさんが小さくうずくまり何度も謝っていて、その姿を見ているのが本当につらくて、強く心に残っています。イモトさん演じるウズメの強い思いを間近で見て、自分自身にも何かを訴えかけられているように感じました。

イモトさんのお芝居はとても勉強になるのはもちろんですが、一緒に演じていて安心感があります。こちらのペースを自然につくってくださるんです。監督さんからあるシーンで、「このシーンは音のない曲」だと教えていただいたのですが、僕はまだその感覚をよく理解できていなくて（笑）。でも、イモトさんの話すテンポや間に自然と合わせていくと、不思議とお芝居がうまくいく感覚がありました。まるでイモトさんが指揮者で、僕が演奏者。「シーンが曲」ってこういうことなのかなとも思いました。

撮影の合間には、イモトさんとサンタクロースの話でも盛り上がりました。イモトさん、フィンランドで実際にサンタを見たことがあるそうなんです。ちょっと羨ましいです！（笑）



写真④ 左から 田村ウズメ（イモトアヤコ）
田村咲子（市毛良枝）
田村久仁彦（菅原大吉）

## ●「家族の存在の大きさ」上京して気づく親の愛



写真⑤ 鮫島奏（柴野晃太朗）

奏を演じることが決まってから、家族や母親について考える機会が多くなって、改めてありがたさを実感しています。受験や進路なども親身になって全力でサポートしてくれますし、自分が家族からたくさんの愛情を受けて育っているんだなと再認識しました。上京して一人で過ごす時間が増えたことで、家族の存在の大きさにも気づきました。料理は基本的に自炊していますが、面倒に感じることも…(笑)。実家では何もしなくても出来たての温かい料理が出てくる。今になって思うと、僕にとって家族は“すごく甘えさせてくれる人たち“だな～と思います(笑)。家族には「ありがとうございます！」と伝えたいです。

## ●「ウズメの言葉が、前向きになるきっかけになれば」作品に込めた思い

この作品を見てくださった方が、ウズメの言葉に触れて、少しでも前向きな気持ちになってくれたら、それが一番うれしいです。僕自身もウズメさんの言葉で勇気を貰ったり、知らない感情に出会えています。
ドラマ放送後には毎回、X で視聴者の皆さんの感想を読ませていただいているのですが、前向きな声をたくさんいただいていて、この作品に携わることができて本当によかったと感じています。
自分も作品の一部として参加できたことを、とてもうれしく思っています。ぜひ最後までご覧ください！



写真⑥ 田村ウズメ（イモトアヤコ）

初々しく、初インタビューもこなしてくれた柴野。そんな柴野の事務所の先輩であり、今回の座長でもあるイモトアヤコに、彼の印象を聞いてみた。

## ●「見ていて羨ましくなるほど」先輩・イモトも驚く柴野晃太朗の吸収力！

Q 事務所の後輩でもある柴野晃太朗さんと、今回初めて共演されてみて、どんな印象を持ちましたか？

今回の現場は、彼がいてくれたことで雰囲気が明るくなりました。幅広い世代のキャストさんが集まっていましたが、年齢に関係なく、お互いに学んだり、吸収したりしようという方ばかりだったので、私にとっても、晃太朗にとっても、とてもいい環境でお芝居ができているなと感じています。
その中でも晃太朗は、誰とでも物おじせずに会話を楽しめる性格なので、現場の潤滑油のような存在です。

敬語を意識して話せるようになったことは褒めてあげたいですね(笑)。彼のスマホの待ち受け画面には、「敬語」って書いてあるんです(笑)。最初の頃は、皆さんにも結構フランクに話しかけていたんですが、少しずつ敬語を意識するようになっていく姿を見てきました。彼の吸収力や学ぼうとする姿勢は本当にすごいなと思います。
いろいろなことをどんどん吸収して、変化していくので、見ていて羨ましくなるほどでした。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

# ※救ちゃんだより※

ウズメ(イモトアヤコ)が 12 年前に引きこもるきっかけとなった、劇作家の小幡賢一。演出家として確かな実力と情熱を持つ一方、私生活ではだらしなく、人への配慮に欠ける一面も。そんな複雑な人物を演じる**和田聰宏**に、小幡の人物像やウズメに対する思い、役作りで意識したことを聞いた。

## ●「一瞬でもウズメが小幡を愛おしいと思える瞬間を」

### 和田聰宏が大切にする役作り



写真⑦ 田村ウズメ（イモトアヤコ）、
小幡賢一（和田聰宏）

Q 小幡賢一は、どのような人物だと感じましたか？ また、演じるうえで大切にしたいことはありますか？

次世代の演出家として、情熱を持って演劇に取り組む真面目な人間だと思います。一方で、私生活のだらしなさや、人に対する配慮に欠けるところもある。でも、なぜか許されてしまうようなカリスマ性を持った人物ですよね。演出家として絶対的な自信を持っていて、作品のためなら、どんな犠牲もいとわない。そんな小幡を演じるうえで、一瞬でもウズメが「小幡を愛おしい」と思える瞬間を表現できたらと思っています。

## ●「12 年前の間違った愛情表現を、そのままに」コバタケの身勝手な愛情

Q ウズメと再会するシーンでは、どんなことを意識して演じましたか？

自分のせいでウズメが離れていったとは思っていないし、周囲の環境や仕事の内容が変わってしまったことも、自分が悪いとは決して思っていません。〝12 年前の間違った愛情表現を、そのまま持ち続けている人物〟として演じようと意識しました。

## ●「この世界で真剣勝負をしたい」俳優として歩み始めた原点

Q 和田さんご自身にとって、人生の転機や新たなスタートになった出来事はありますか？

初めて参加した映画の撮影現場で、作品に関わる方々の〝本気〟を目の当たりにしたことです。「僕もこの世界で真剣勝負をしたい」と、心から思えた瞬間でした。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＜第８話 見どころ＞

## ●10 月期、随一の癒し系ドラマでまさかのリベンジもの！？

## トラウマ植え付けた最低男に逆襲なるか！？

便利屋「救ちゃん」の興梠（白洲迅）が突然休業を言い出す。納得できない舞（大原梓）らメンバーの不満をよそに、仕事に出てこなくなる興梠。そんな中、ウズメ（イモトアヤコ）は興梠不在の救ちゃんを守ろうと、他のメンバーと奮闘し始めるが、ある日、かつて自分の人生を大きく狂わせた劇作家のコバタケこと小幡賢一（和田聰宏）と偶然再会してしまう。それは 12 年前、引きこもる原因を作った男だった。当時の記憶がよみがえり、また部屋から出られなくなるのではないかという恐怖に襲われるウズメだったが、そんなウズメの気も知らず、コバタケは突然、今度の舞台の主演を任せたいと言い出す。相変わらず身勝手な態度に腹を立てたウズメは、その依頼を引き受けることに。最低トラウマ男へのウズメの逆襲が始まる！？



写真⑧ 左から 田村ウズメ（イモトアヤコ）、小幡賢一（和田聰宏）、鳩山繁則（相島一之）



写真⑨ 田村ウズメ（イモトアヤコ）、小幡賢一（和田聰宏）

## ●「人は一人じゃ生きていけない」仲間に支えられ、過去に決着を！

一方、興梠はかつて市役所時代に支援していた元引きこもりの女性・奈央（鈴木結乃）を探していた。奈央から送りつけられた一枚の写真。それは興梠に不安を感じさせるものだったのだ。

そんな中、一人で抱え込む興梠のところへ、救ちゃんを見守るマダム、ニコ（前田美波里）が訪れる。

「ひとりで抱え込むなんてかっこつけよ」

5 年前、興梠と奈央の間に起きたある事件。そして、興梠自身も引きこもっていた過去――

ニコとの出会いの日、ニコが興梠に告げた言葉とは！？

仲間の存在と、「助けて」と SOS を伝えることの大切さを描く第 8 話。



写真⑩ ニコ・スミス（前田美波里）



写真⑪ 左から 興梠侑誠（白洲迅）、小田切舞（大原梓）、鮫島奏（柴野晃太朗）鳩山繁則（相島一之）田村ウズメ（イモトアヤコ）

［第８話　逆襲のウズメ？］

かつて自分の人生を大きく狂わせた、劇作家で元恋人のコバタケこと小幡賢一（和田聰宏）と思いがけず再会するウズメ（イモトアヤコ）。心の傷がフラッシュバックし、また部屋から出られなくなるかもと恐怖がよぎる中、そんなウズメの気も知らずコバタケは突然舞台の主演をウズメに任せると言い出す。相変わらず傍若無人なコバタケに腹が立ったウズメはその依頼を承諾。コバタケへの逆襲を誓うが、母・咲子（市毛良枝）からは猛反対に遭い……

そんな中、便利屋「救ちゃん」の興梠（白洲迅）はある人物の行方を捜していた。何も言わない興梠に舞（大原梓）や奏（柴野晃太朗）はいら立ちを見せ始めて…。



写真⑫　田村ウズメ（イモトアヤコ）



写真⑬　小幡賢一（和田聰宏）、田村ウズメ（イモトアヤコ）



写真⑭　田村ウズメ（イモトアヤコ）、田村咲子（市毛良枝）



写真⑮　興梠侑誠（白洲迅）

放送概要

| | |
|---|---|
| 【タイトル】 | 土ドラ『再生のウズメ』 |
| 【放送時間】 | 2026 年 10 月 3 日(土)～12 月 5 日(土)予定＜全 10 話＞<br>毎週土曜日 23 時 40 分～ 東海テレビ・フジテレビ系全国ネット |
| 【出演】 | イモトアヤコ 白洲迅 大原梓 柴野晃太朗 / 前田美波里 / 黒川智花<br>和田聰宏 /相島一之 菅原大吉 市毛良枝 |
| 【企画】 | 稲吉 豊(東海テレビ) 伊藤 真保(東海テレビ) |
| 【原作】 | 天堂 きりん『再生のウズメ』（祥伝社 FEEL COMICS） |
| 【脚本】 | 鎌田 智恵 早船 歌江子 |
| 【音楽】 | 鈴木 ヤスヨシ |
| 【主題歌】 | MAZZEL 「Touch」(ユニバーサル ミュージック) |
| 【オープニングテーマ】 | レトロリロン「Dear」(ユニバーサル ミュージック) |
| 【演出】 | 古澤 健 |
| 【プロデューサー】 | 松本 圭右(東海テレビ) / 河角 直樹(東海テレビ)<br>古林 都子(The icon) / 渋谷 未来(The icon) |
| 【 制作 】 | 東海テレビ / The icon |

---

本件に関する問い合わせ先

東海テレビ 東京編成部　伊藤光輝　電話 03(3503)1391
メディアマーケティング部　角 あかり　電話 052(954)1131